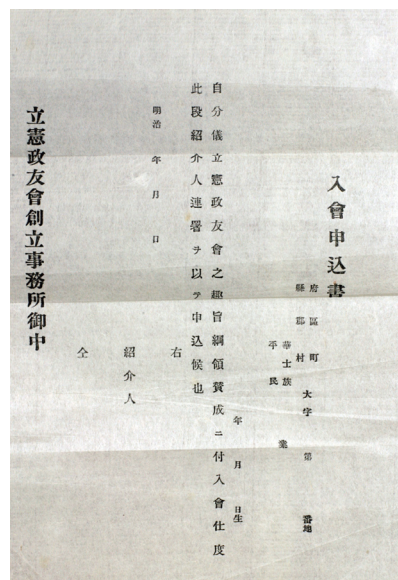
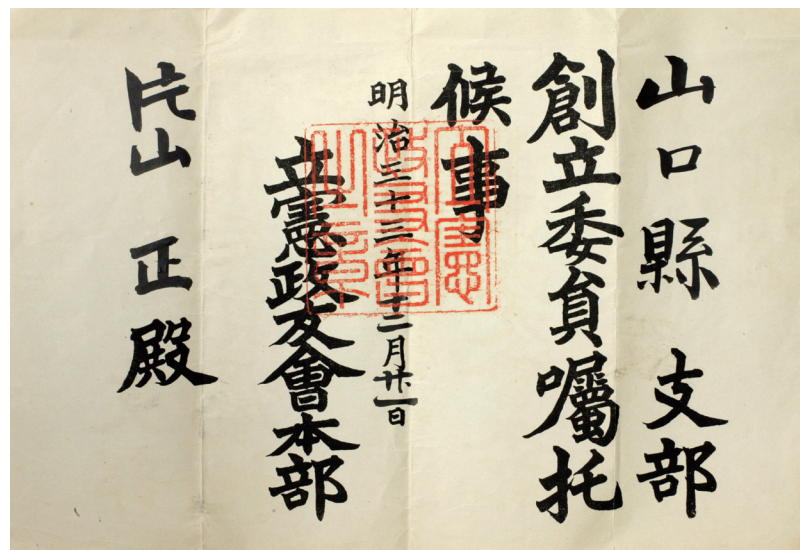


立憲政友会山口県支部の創立



* 片山家文書（阿東町）14「立憲政友会山口県支部創立委員囑状及創立委員名簿」

* 片山家文書（阿東町）10「立憲政友会入会申込書」

解説

帝国議会開設以来、藩閥政府と政党（民党）との対立により不安定な議会運営が続いていましたが、日清戦争を境に両者は協力し合うようになりました。

政党を中心とした議会の安定的な運営を企図した伊藤博文は、1900（明治33）年9月、官僚や憲政党などを結集し、立憲政友会を結成しました。政友会はその後政党の中心になり、長く日本の地主・資本家階級の利益を代表する存在になりました。

山口県においても、防長同志会が合流するなど多数の加入者があり、立憲政友会山口県支部創立の準備も進められました。写真上は、立憲政友会本部から出された山口県支部創立委員の委嘱状です。1900年12月21日付けで県内の72名が委員に委嘱されています。委員には会員数の増大などが求められました。写真下は立憲政友会への入会申込書です。

* 明治30年代に県会議員を務めた片山家の文書の中には、その他、立憲政友会山口県支部規約の草案などもあります（片山家文書11）。